

平成26年度 第2回上越市青少年健全育成関係機関連絡協議会 議事録

日 時：平成27年1月16日（金）午後2時～4時00分
場 所：教育プラザ研修棟3階 大会議室

出席者氏名（敬称略）

- ・委員：宮川久良、小堀美恵子（渡邊委員の代理）、樋口賢二、小出俊雄
宮崎俊英、小松はる子、渡邊長芳、木澤恵子、小山 晴、藤井清比古
坪井裕章（笠原委員の代理）、田中 敦（吉田委員の代理）
欠席者（藤田和徳、若山 宏）
- ・事務局：青少年健全育成センター 笹川所長（兼生涯学習推進課長）
佐藤副所長（兼生涯学習推進課参事）、竹田副所長、八島指導員

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議 事

(1) 話題提供

「上越地区保護司会の取組と諸問題について」

上越地区保護司会 渡邊長芳委員より資料に基づいて説明

○質疑

【青少年健全育成センター】 笹川所長

裁判員裁判で保護観察処分の件数が増えているのに、減少傾向にあるとの説明があったが、整合性は？

【上越地区保護司会】 渡邊委員

明確な説明なし

【青少年健全育成センター】 笹川所長

少年処分の時に対応で苦慮している点は？

【上越地区保護司会】 渡邊委員

個々の保護司の抱えているケースがバラバラで、何かを取り上げて説明するのは難しい。

本人が言うことを聞かないケース。保護者が無関心なケースさまざまである。

【直江津地区更生保護女性会】 木澤委員

私の経験から、家庭環境が悪いと中学生2・3年生頃から、精神的に悩むと思われ非行に走るケースがある。軽い発達障害の子どもが増えている。そういう子どもは授業についていけない。そうなる周りからいじめられたり、かまわれたりする。その結果非行に走ることがある。適切な対応がなされていれば、そのようなことはない。治療・適切な療法を受けると改善することもある。

家庭が駄目な時は、ひとくくりせずに保護者と切り離して対応を行っている。

協力雇用主の中には、アルバイトから就職・就労につながるようにしてくれている人もいる。就労につながらないと生活も精神的にも安定しない。

BBSの事業に参加して、様々な人と触れ合う中で自分の身ぶりを考える子どももいる。

(2) 各機関からの情報提供

【上越教育事務所】 宮川委員

昨年の秋に文部科学省から問題行動に関する調査結果が発表された。上越管内の状況について話をしたい。

- ・小学生の「いじめ」認知件数が増加した。
平成24年度：100件 平成25年度：110件
- ・小学校で暴力件数が増加している。
平成24年度：1ヶ校1件 平成25年度：9ヶ校34件
(内訳・生徒間：16件、対教師：15件、器物破壊：3件)
- ・中学校の「いじめ」の認知件数は減少したが、不登校件数が増加した。
平成24年度：153人 平成25年度：173人
- ・平成26年度4月～12月末までに、小中学校から教育事務所へ事故報告された件数は23件であった。
- 生徒指導訪問（教育事務所、市教委と共同で小・中学校へ訪問・指導している）
 - ・関係機関との連携を含めた生徒指導の強化
 - ・いじめアンケートの実施
 - ・いじめ未然防止と適切な対応
 - ・学校における性指導の充実
 対象：小・中学生
 保健体育、道徳、家庭科の時間など

【上越少年サポートセンター】小堀代理委員

- 非行防止教室の実施について
 - ・非行防止、薬物乱用（危険ドラッグ）
 - ・夏休み中に放課後児童クラブに出向いて紙芝居を行った。

【上越児童相談所】樋口委員

- 児童虐待について
 - ・県内で8名の所在不明があったが、その後の調査で全て確認できた。
 - ・母親による虐待は、望まない妊娠が原因の一つにとされている。
 - ・虐待の件数の増加に関しては、虐待に関する事案をマスコミが取り上げることにより、虐待に関心が高まり気にかかる人や通報する人が増えたことによる。

【上越市中学校長会】小出委員

- ・生徒指導等情報交換会を行っている
- ・校長会の会議の中では、実名を挙げて情報共有を行っている。
- ・小中連携の会議を年に2回行っている。
- ・教頭や担当者レベルでの情報交換を行っている。
- ・直江津駅の自由通路（市の管轄）でたむろしている子どもがいる。
- ・年明け早々に市内の中学生が恐喝の容疑で逮捕された。
- ・保護者や業者などとも定期的な情報交換・共有をする必要がある。
- ・SNSに載っていた個人情報盗み、LINEに投稿し悪徳業者から勧誘のメールが来るようになった。（SNSには本名などの個人情報を入れる必要があるため）

【上越市小学校長会】宮崎委員

- ・非行が低年齢化している。
- ・関係機関と連携を図る方策を考えている。
- ・小学生レベルからの対応が必要に思う。

- ・先に逮捕された中学生のことが挙げられたが、恐喝の内容について中学校の教師は分かるが、小学校の教師では分からない。連携が必要である。
- ・保育園長からの情報で、保育園児（未満児を含む）がタブレットを使って遊んでいるのを自慢する保護者が増えてきたとのこと。

【上越市民生委員児童委員協議会連合会】小松委員

- ・人、地域によって活動内容や状況はバラバラである。しかし、地域ネットワークを活用して情報収集を行っている。

【直江津地区更生保護女性会】木澤委員

- ・育成センターが行う街頭指導にも加わっている。
- ・社会貢献活動をするための事前活動を始めている。
- ・平成27年6月、社会貢献活動が義務付けに近い形で本格実施する。上越では平成23年から試行してきた。

【地域青少年育成会議協議会】藤井委員

- ・中・高校生による地域貢献活動が各地域で多くなってきている。
- ・他県の子どもの挨拶が非常に良いと感じる現場に出会わした。子ども達の仲間づくりの素晴らしさが見えた。
- ・他市の保護者から相談があった。子どもの学力低下に関して、本人と保護者に対して決めつけや憶測で話をする教師がいる。上から目線で子どもに対応してはいけない。

【健康福祉部子ども課】坪井代理委員

- ・子どもへの対応として、教育委員会と子ども課とで役割分担をしている。健全育成やいじめなどは教育委員会。子ども課は虐待のみ対応している。
- ・現在実態を集計中ではあるが、前年度と同程度ではないかと考えている。
- ・ネグレクト（育児放棄、育児怠慢）に関して終結できないケースが増えてきている。
- ・保護者の価値観が変わってきている。
- ・知的障害の子どもが増えてきている。
- ・子どものネット依存症が増えている。若い保護者は子どもが泣いた際、抱っこをしたりしてあやすのではなく、タブレットやスマホ・ゲームなどを与えて泣きやましている。若い保護者に、親としての育成が必要と感じている。
- ・子どもの権利について、市内の保育士を集めて研修会を実施している。

【学校教育課】田中代理委員

○非行、問題の内容

- ・「いじめ」は増加傾向にある。

小学校		中学校	
平成26年度	平成25年度	平成26年度	平成25年度
64件	53件	59件	50件

- ・昨年はいじめの対応について、保護者から苦情が多数寄せられた。今年は来ていない。丁寧な対応をしているので、その成果ではないかと思っている。(解消率90%)
- ・不登校が減少傾向にある。(平成26年度は4～11月(30日以上のお休み))

小学校		中学校	
平成26年度	平成25年度	平成26年度	平成25年度
4件	13件	84件	100件

- ・夏休みや冬休みなど、長期休業後に不登校になるケースがある。休業終了直前に気になる子どもへのフォロー(宿題の完了など)を行っている。
- ・保護者はタブレットやゲームなど、通信可能な機器へのフィルタリングをしない。購入当初はフィルターが掛けてあっても外してしまう。その結果、アダルトサイトなどに小学生がアクセスしてしまう。
- ・現在のネット環境下では、都市部・農村部問わず子どもへの対応は同じでなければならない。
- ・保護者が逮捕されるケースがある。関係機関と連携して、子どもへの対応を行っている。
- ・保護者の身勝手から、子どもが被害に遭っている。
- ・ジャスト事業を展開
各校で対応できない生徒に対しては、市教委や関係機関と連携して対応している。平成26年度は234件の対応を行っている。

【青少年健全育成センター】竹田副所長

- ・資料に基づいて説明

4 閉 会